



# 新治小学校だより

令和元年度

3月号

学校教育目標：ひびく心 はずむ体 見つめる目

～新治のよさを持続して活かしながら、

よりよい社会を創ろうとする子どもを育む学校を目指して～

令和2年2月28日

## 自ら学ぼうとする子を育むために



校長 宮本 雅司

昇降口前には、技術員や職員が準備した「ひな人形」が飾られています。春の訪れを感じる季節となりました。今年度は、学級閉鎖がなくインフルエンザは収束に向かいつつあります。一方で、報道等で連日話題になっている新型コロナウイルス感染症。今後の行事等実施の変更も余儀なくされそうです。先日お便りを配付しましたが、子どもたちの健康管理へのご協力とご支援を引き続きよろしくお願いいたします。

2月3日の朝会。私が節分や立春の話をしながらか、「どうして“豆”を投げるのかな」と問うと、1年生から「鬼が嫌いだからじゃない？」との声。「豆を投げるのは鬼が嫌いだからなのか、次の朝会までに調べられたら教えてくださいね」と投げ掛けました。

そして、1週間後の2月10日の朝会。自分たちで進んで調べて来た3年生の子どもたちが、「魔(ま)の目(め)に投げる」「芽が出て来ないように炒り豆を投げる」「魔(ま)を滅(め)つするために投げる」等の話を全校に紹介してくれました。今は、「横浜にはどうして雪があまり降らないのか」を1年生や3年生が調べています。きっと3月の朝会で紹介してくれるだろうと、今から楽しみにしています。

来年度は、新学習指導要領完全実施の年になります。「社会に開かれた教育課程の創造と実現」「子どもたちに資質や能力を育む」等の理念のもと、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを目指します。また、学習評価が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3観点になり、5, 6年生では外国語科の授業が行われます。

これまで大切にされてきた「主体性」や「自ら学び考える姿勢」は、自分の生き方を創ることが求められていく時代への移り変わりの中で、益々重要になってくることと思います。今後さらに、子どもたちが感じた疑問をもとに学んでいく授業や、子どもたちが生き生きと活動する姿を大切にしたい教育活動を創っていきたくと思っています。

2月は、今年度最後の『はぐくみ協働運営協議会』がありました。新治小では、「生き抜く力」「学ぶ力」「規範意識」の取組を大切にしていますが、3グループで話し合いもしました。ほんの一部ですが主な話題です。

- 昨年一昨年よりも学校の危機管理の状態はよいと思う。子どもが一番利益を受けるべき。楽しさのポイントは多様。価値観は多様化している。学校が一番ではない時代になっているように思う。
- 児童アンケートでは、地域の人と一緒に学習や活動の楽しさ、新治のよさを味わえた活動の数値が増えている。先生たちが異動されても、地域コーディネーターが新治のよさをつなげるようにしたい。
- 学校の楽しさは学習だけではない。給食や友達などもある。ピクトブも再生されるし、一人一人の子が楽しめることがあれば、特に大きな問題は起こらないと思う。
- 学校は警察からも講師を呼んでネットの使い方やいじめ防止に取り組んでいる。児童アンケートからは、困ったときに相談できる相手がいないと答えた子がまだ5.6%いるので、0を目指せたらと思う。
- 子どもの元気で楽しい声が聞こえるよう守っていかなくては。地域の方にも行事等声かけして欲しい。
- 児童数が減ってきているが、小回りが利くよさや、異学年交流ができるよさがある。目も行き届く。
- 保護者・地域・学校の協力とよく言うが、地域の方が子どものことをこれだけ考えてくれてありがたい。
- やられたらやり返せというような家庭での教育はよくないと思う。
- 変化のあった年だった。学校が子どものことを考えている。子どもが楽しいと保護者としても安心する。  
※この他には、学校のお手伝いをしてくださる方を増やすためにどうしたらよいかや、新治ラリーやなわとび、田んぼの活動などについてのアイデア、キッズの法人変更等が話題になりました。

さて、今の学年で学ぶ最後の3月を迎えます。中学校への進学を間近に迎えた6年生は、小学校生活最後の学習や卒業に向けての活動を頑張っています。今年度も、保護者や地域の皆様には、学校の様々な教育活動にご理解とご支援をくださり、誠にありがとうございました。教職員一同、感謝申し上げます。未来の社会を創る子どもたちをこれからも共によりよく育てていきたいと思っています。

4月からの新年度も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

